

# や っ ち ゃ ば 閑 話

## － 今までとこれから －

県職員が市場に駐在するようになったのは、昭和40年度に遡ります。当時は秋葉原駅近くの神田市場内に勤務していました。その後、市場の統合や組織改編などがあり、平成18年4月1日に今の首都圏マーケティングセンター（MC）が設置され、18年経ちました。その間、この「コーナー」は、1年ほど休止していた期間があり、とある熱烈なファンからの要望で平成19年の7月から再スタートしたという閑話が残っておりました。新年度から首都圏MCは生産振興課として新たなスタートを切るわけですが、この園芸市場情報も新たなスタートとなります（執筆現在は旧体制のため、5月号より）。

さて、今までこの「やっちゃば閑話」では、市場にいて感じることや市場関係者からの話、都中央の入荷データから見えることなど、その時、その時の千葉県の課題や千葉県農業への願望・提案、全国の状況・取組紹介、その他市場に関する諸々を話題にしてきました。過去の閑話を見ていて思うのは、良くも悪くも千葉県は変わっていないのかなということです。

十数年前から生産量の低下や規格統一によるロットの確保、都中央卸売市場の入荷量のシェア率の減少が話題となっていました。はたまた、首都圏MCは市場の情報収集と合わせて量販店での千葉県フェアも業務の1つのため、いかに消費者に農産物や産地をPRし、選んでもらえるかと課題は尽きません。ただ、これらの課題は千葉県だけでなく、全国各産地でも課題であると思います。その中で、課題に向き合い、できることを少しずつ行ってきた産地が、十数年前からの現在、現状維持、ないしは伸びてきている産地だと思います。「ローマは一日にして成らず」ではありませんが、環境に応じて変わっていく必要は過去のやっちゃばを見直しているだけでもひしひしと感じます。普及している時は、ここの情報を「なるほど～」と思って読んでいたものの、行動に移すにはどこにどうアプローチしたものか悩んだことを思い出します。

コロナ禍後、様々な事が大きく変化しました。生産振興課へ移行することになり、市場にいるからこそ知る・感じる情報がどう活かされるのか乞うご期待です。

（出不精な旅行好き）